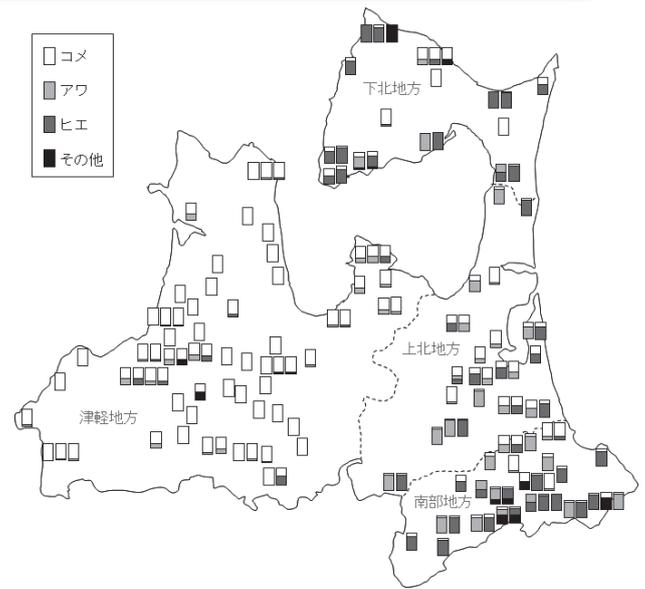


青森県における雑穀栽培およびその食文化の変遷と現状

研究事業「少子高齢化地域における生業および生活の在来知に関する再評価と活用」のため、2020年度には、青森県における人と雑穀の関りを、農と食の観点から検討した。具体的には、雑穀栽培が古来より行われ、文化社会と密接に結びついてきた青森県において、明治末期以降の雑穀栽培および食文化の変遷を明らかにし、今後の雑穀利用の展開を考察した。

明らかになったことは主に、青森県における100年ほど前の穀物利用、雑穀栽培および食生活の変遷、近年の動向である。図は、青森県史に掲載された論文(成田 2001, 2007, 2014)に示された朝食における穀物利用の割合のデータに基づき、作成したものである。この図から、1910年代初頭には、青森県東部、中でも南部地方の岩手県境ではアワ及びヒエが重点的に利用され、津軽地方では主にコメが利用されたことが読み取れる。この穀物利用割合における相違点は、夏の気温差、冬の降雪量の違い等の自然環境の違いに起因すると考えられた。

地域連携センター 専任研究員 石本 雄大



青森県における朝食への穀物利用割合(1910年代初頭)
出典)石本雄大(2020)青森県における雑穀栽培及びその食文化の変遷と現状. 雑穀研究, 35:23-32.

2020年度 青森公立大学公開講座報告

青森公立大学では、公益財団法人青森学術文化振興財団の助成事業として、以下の公開講座を開催しました。実施状況を講座ごとに記します。

外国語講座

本講座は、青森公立大学地域連携センター1階において、10月から12月にかけて順次開講され、延べ受講者数は193名でした。今年度は「ことばと文化IV～異なることばを学ぶ～」、「TOEIC入門」、「英語プレゼンテーション入門」、「ビジネス英語入門」、「英文法入門」、「英文学入門～ディケンズと迎えるクリスマス～」と計6コースが行われました。講座終了後に受講者から回答いただいたアンケートの一部をご紹介します。

ご意見・ご感想

- 文化圏と言語の繋がりについて知識を広めることができました。(ことばと文化IV受講者)
- ビジネスの場で使われる英語と日常で使用されるの英語の違いが理解できました。(ビジネス英語入門受講者)
- 歴史・文化・習慣などの詳細な説明により、理解が深まり、興味が広がりました。(英文学入門受講者)



TOEIC入門 担当:丹藤 永也 准教授



英語プレゼンテーション入門 担当:エシアナ ベネス 講師